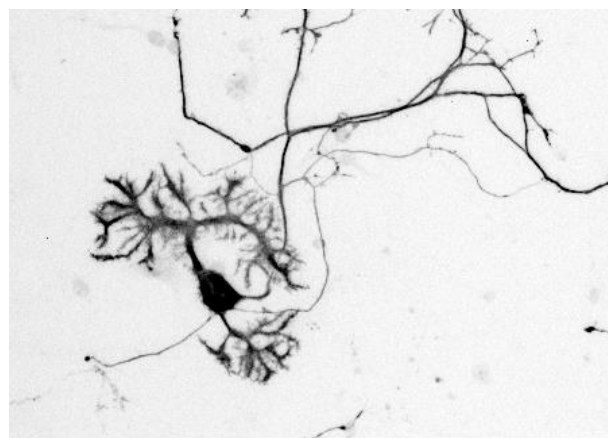
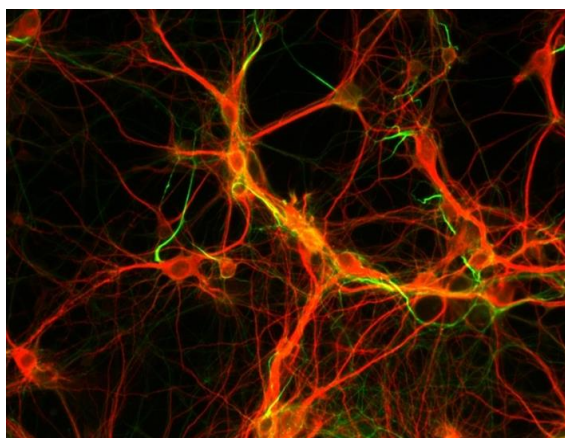


神経細胞培養関連試薬

当社では、神経細胞培養用の試薬を幅広く取り揃えております。
本パンフレットでは、当社ラインアップからおすすめの製品をご紹介します。



目次

神経細胞用培地	_____	P.1
凍結神経細胞シリーズ	_____	P.7
神経細胞用分散液	_____	P.7
脳組織凍結保存溶液	_____	P.9
NS基礎培地/NSサプリメント	_____	P.11
N2サプリメントシリーズ	_____	P.13
神経関連抗体	_____	P.15

神経細胞用培地

初代神経細胞の培養が上手いかわりに

本製品はラット、マウスの初代神経細胞用無血清培地であり、中枢神経系細胞の培養に最適化されています。本製品はラットグリア細胞培養上清を含有しています。

特長

● 短期間で神経細胞が成熟

神経細胞用培地 : 14日
一般的な培地 : 約1ヶ月



培養期間を
約1/2に短縮！

● 低密度培養が可能

神経細胞用培地 : 0.1×10^6 cells/mL
一般的な培地 : $0.5 \sim 1.0 \times 10^6$ cells/mL

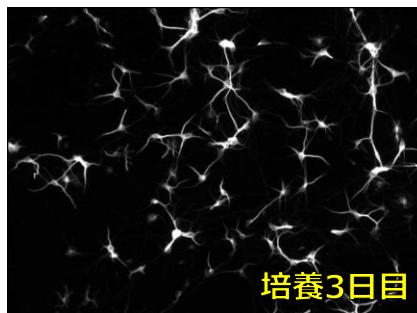
1/5～1/10の細胞数でも
培養可能！

● Ready-to-use

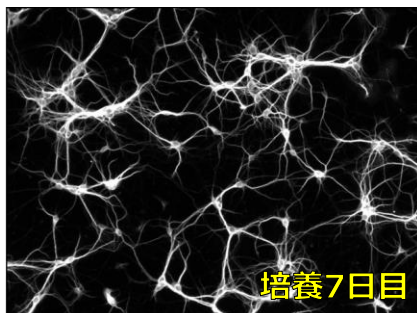
培地のみで培養可能。サプリメント類の添加は不要。

実験1 ▶ 樹状突起伸展確認 (MAP2免疫染色)

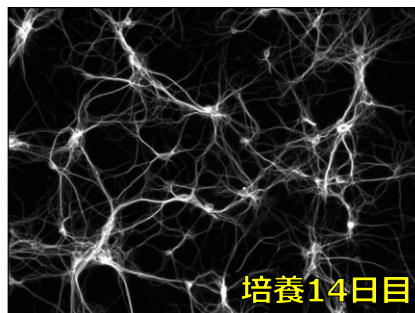
本製品のみ



培養3日目

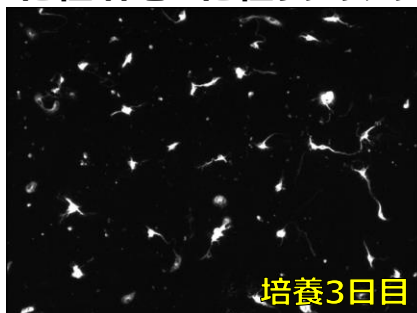


培養7日目

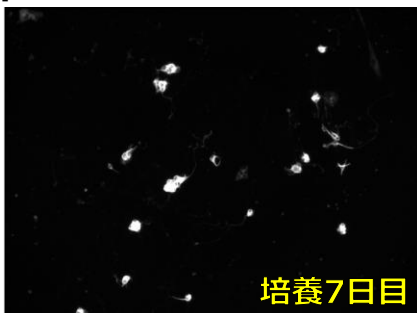


培養14日目

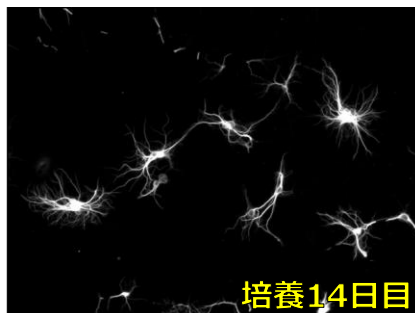
他社培地+他社サプリメント



培養3日目



培養7日目



培養14日目

実験条件

細胞数 : 0.1×10^6 cells/mL (妊娠18.5日目マウスの胎児海馬より分散)

培養スケール : 500 μ L/well (ポリジメチレンコートガラスボトムディッシュ)

培養条件 : 培養3日目、7日目に培地半量交換(Ara-C添加なし)

データご提供

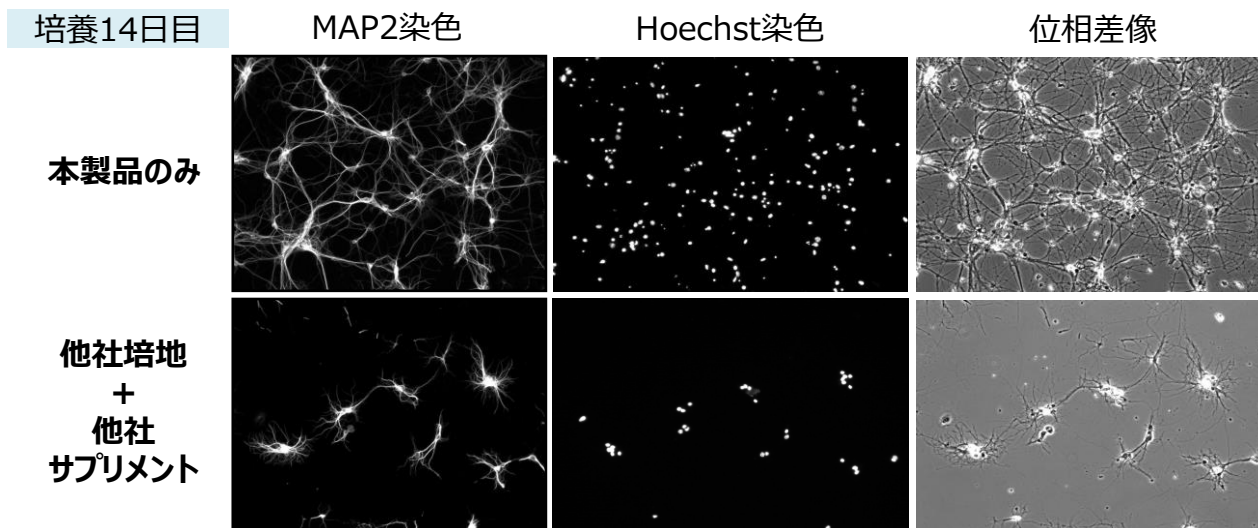
東京慈恵会医科大学 再生医学研究部

岡野 ジェイムス洋尚先生、小川優樹様



本製品を用いて培養した神経細胞は他社品で培養したものと比較して樹状突起の伸展速度が優れていることが確認できた。

実験2 樹状突起伸展、生細胞数確認 (MAP2, Hoechst免疫染色)



実験条件

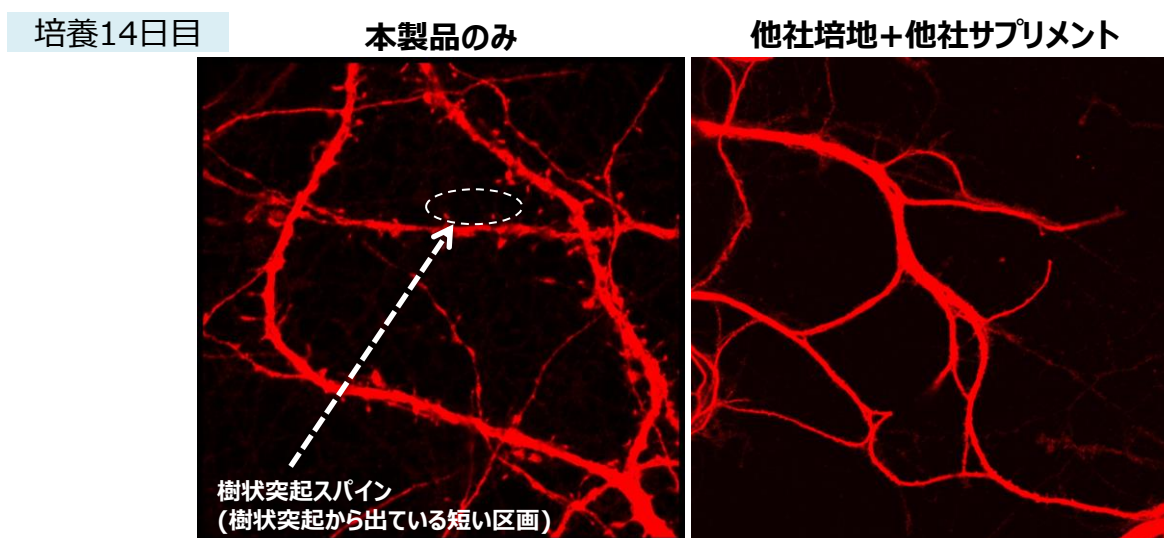
細胞数： 0.1×10^6 cells/mL(妊娠18.5日目マウスの胎児海馬より分散)
 培養スケール：500 μ L/well(ポリジメチレンコートガラスボトムディッシュ)
 培養条件：培養3日目、7日目に培地半量交換(Ara-C添加なし)

データご提供

東京慈恵会医科大学 再生医学研究部
 岡野 ジェイムス 洋尚先生、小川優樹様

➡ 本製品を用いて培養した神経細胞は他社品で培養したものと比較して樹状突起の伸展に優れ、また生細胞数も多いことが確認できた。

実験3 神経細胞成熟度評価：樹状突起スパイン確認



実験条件

実験2と同様

データご提供

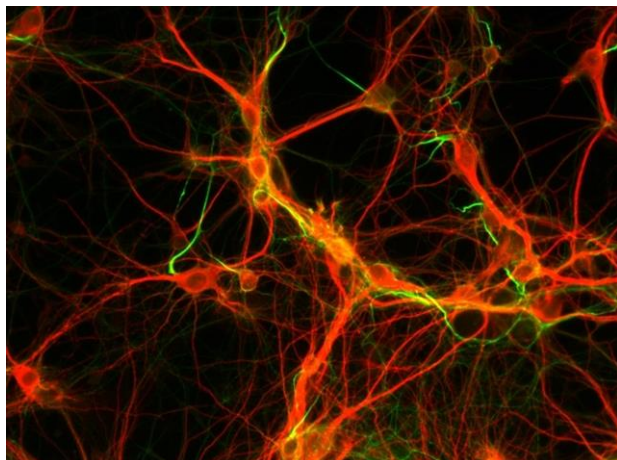
東京慈恵会医科大学 再生医学研究部
 岡野 ジェイムス 洋尚先生、小川優樹様

➡ 本製品を用いて培養した神経細胞には培養14日目において成熟時の特徴である樹状突起スパインが確認できた。

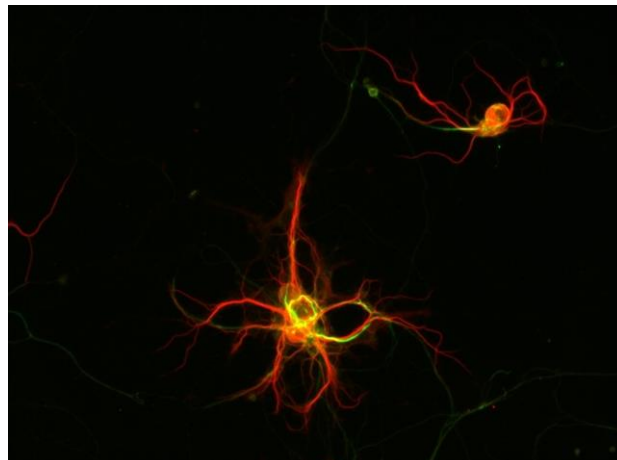
実験4 神経細胞成熟度確認：樹状突起、軸索確認

培養14日目

本製品のみ



他社培地+他社サプリメント




MAP2 : 樹状突起のマーカー
AnkyrinG : 神経軸索の付け根の部分のマーカー

実験条件

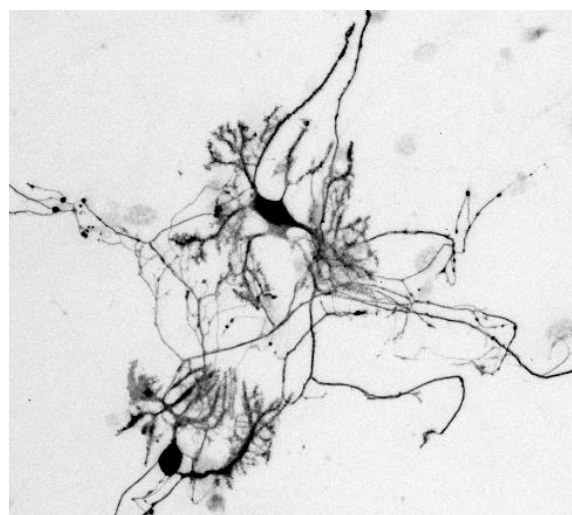
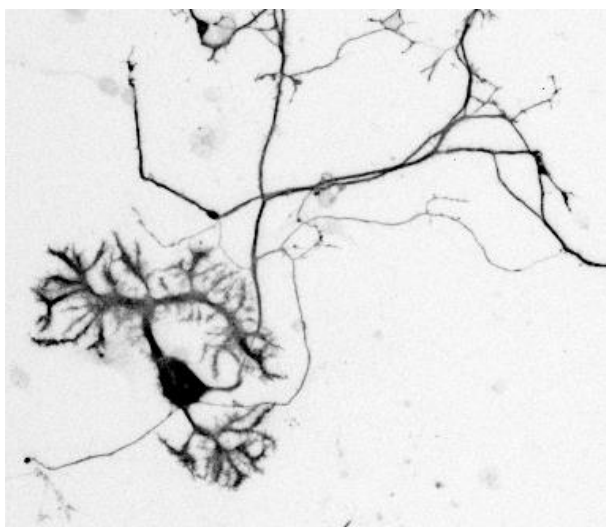
細胞数： 0.1×10^6 cells/mL(妊娠18.5日目マウスの胎児海馬より分散)
培養スケール：500 μ L/well(ポリリジンコートガラスボトムディッシュ)
培養条件：培養3日目、7日目に培地半量交換(Ara-C添加なし)

データご提供

東京慈恵会医科大学 再生医学研究部
岡野 ジェイムス洋尚先生、小川優樹様

 本製品を用いて培養した神経細胞は複数の樹状突起と1本の軸索が細胞体より伸びていることから正常に成熟していることが確認された。

実験5 マウスプルキンエ細胞培養 (Calbindin免疫染色)




実験条件

細胞数： 0.1×10^6 cells/well(妊娠18日目マウスの胎児海馬より分散)
培養スケール：500 μ L/well(ポリリジンコートガラスボトムディッシュ)
培養条件：終濃度1 nmol/LでTriiodothyronineを添加

データご提供

東京慈恵会医科大学 再生医学研究部
岡野 ジェイムス洋尚先生、小川優樹様

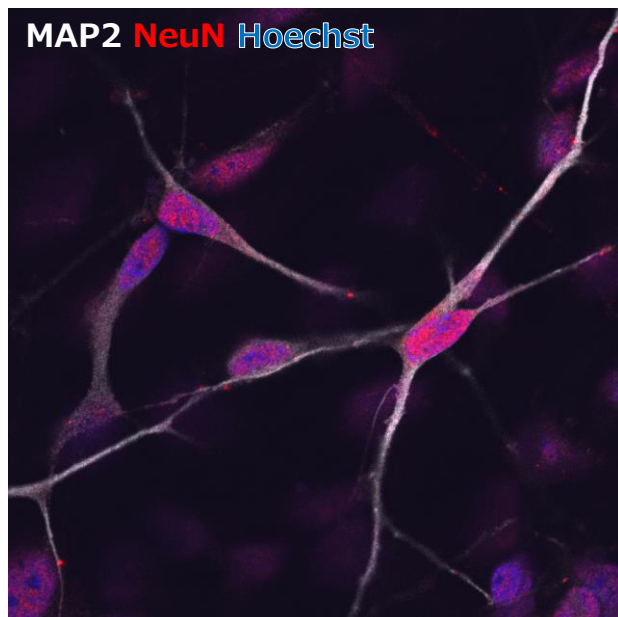
 本製品に1 nmol/L の濃度でTriiodothyronineを加え、培養したプルキンエ細胞はCalbindin陽性であり、また、樹状突起の進展が見られた。

実験6

ヒトiPS細胞由来神経細胞成熟度確認

(MAP2, NeuN, Hoechst免疫染色)

ドパミン神経分化誘導法による分散培養14日目(分化誘導後42日目)



MAP2 : 樹状突起のマーカー
NeuN : 成熟ニューロンの細胞核のマーカー
Hoechst : 細胞核のマーカー

データご提供

東京慈恵会医科大学 再生医学研究部
岡野 ジェイムス洋尚先生、坊野恵子様

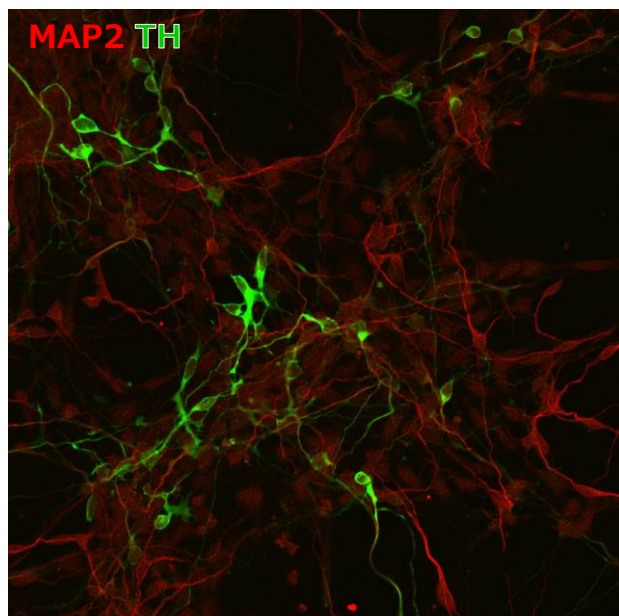


本製品を用いて培養したヒトiPS細胞由来神経細胞はNeuN染色されることから成熟した神経細胞であると確認できた。

実験7

ヒトiPS細胞由来神経細胞成熟度確認 (MAP2, TH免疫染色)

ドパミン神経分化誘導法による分散培養14日目(分化誘導後42日目)



MAP2 : 樹状突起のマーカー
TH : ドパミン作動性ニューロンのマーカー

データご提供

東京慈恵会医科大学 再生医学研究部
岡野 ジェイムス洋尚先生、坊野恵子様



ドパミン神経分化誘導法により得られたTH陽性細胞の維持培養においても神経細胞の生存率が向上した。

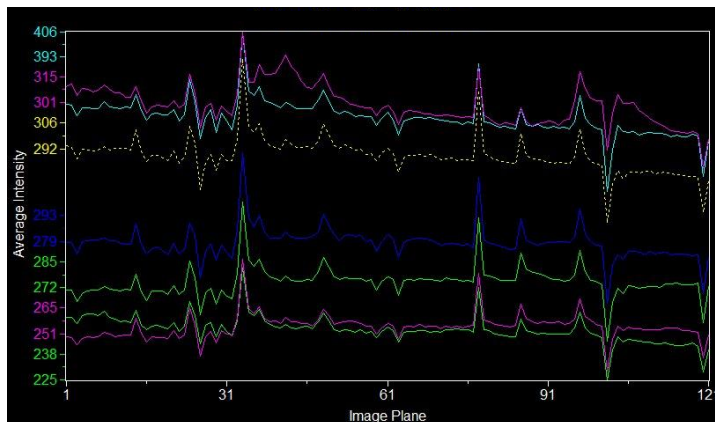
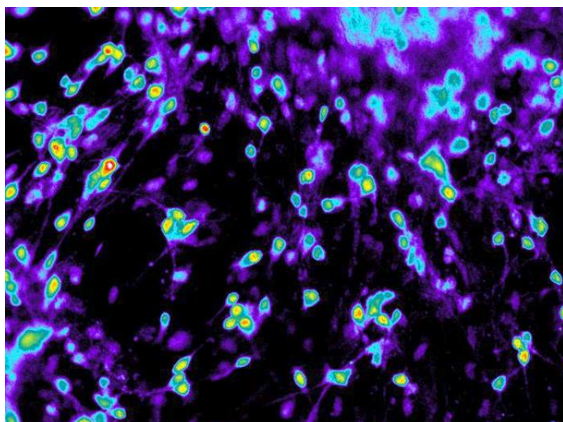
実験 8

ヒトiPS細胞由来神経細胞の生理的機能検証 (Ca²⁺イメージング)

ドパミン神経分化誘導法による分散培養14日目(分化誘導42日目)

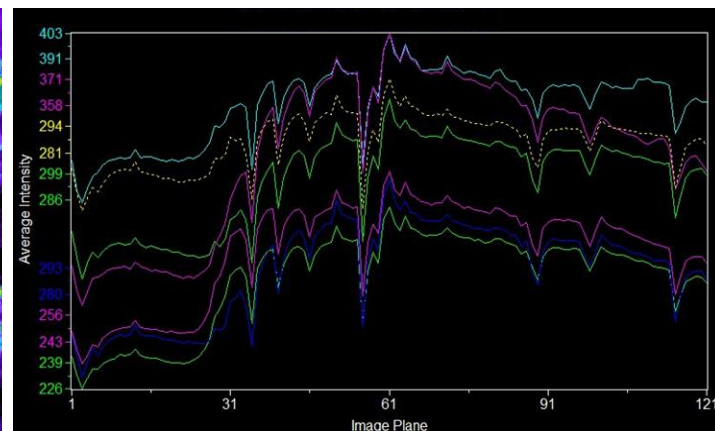
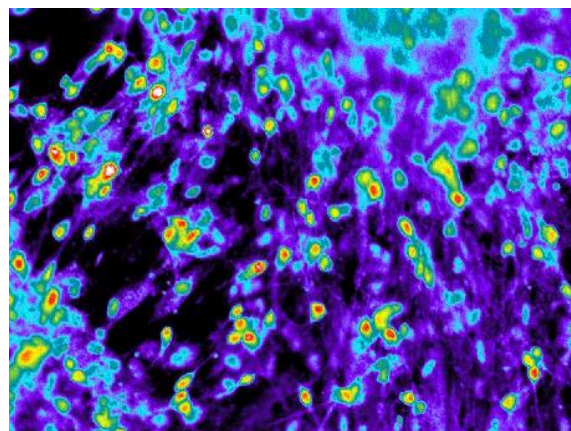
<自然発火>

ヒトiPS細胞由来神経細胞



<イオノマイシン添加>

ヒトiPS細胞由来神経細胞



データご提供


東京慈恵会医科大学 再生医学研究部

岡野 ジェイムス洋尚先生、坊野恵子様



本製品を用いて培養したヒトiPS細胞由来神経細胞の中にCa²⁺イメージングにおいて
自立的な活動を行う細胞が確認できた。

製品情報

製品コード	品名	規格	容量	希望納入価格(円)
148-09671	神経細胞用培地	 細胞培養用	100 mL	52,000

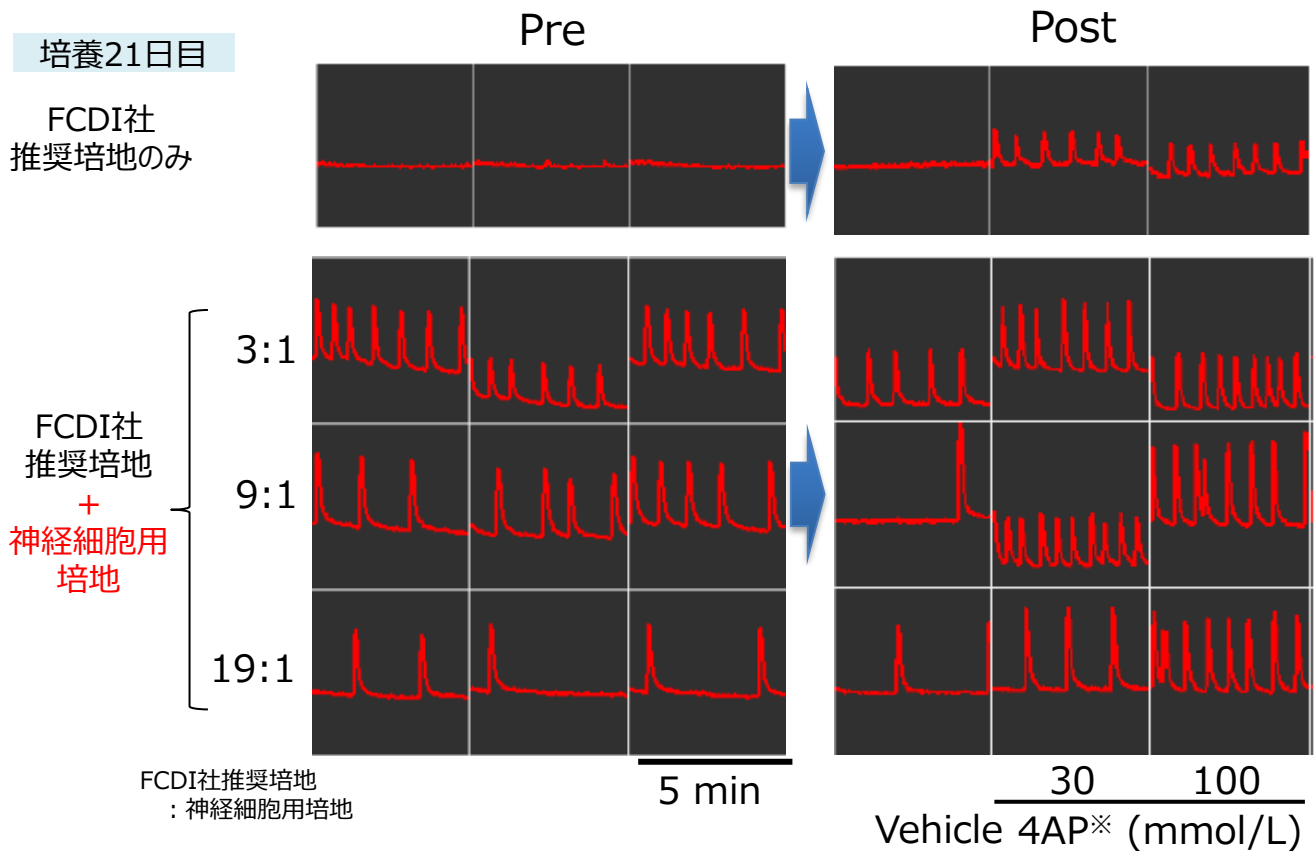


神経細胞用培地はiCell® GlutaNeuronsの培養に
サプリメントとして応用することができます！

実験 9

ヒトiPS細胞由来神経細胞生理的機能検証 (Ca²⁺イメージング)

各培地で培養したiCell® GlutaNeurons(FUJIFILM Cellular Dynamics, Inc. : FCDI社) を Ca²⁺イメージングにて解析した。また、痙攣誘発物質である4-アミノピリジン(4AP)を添加し、その反応を確認した。



* : K⁺ チャンネル阻害剤。痙攣誘発物質として知られており、添加することで神経細胞の発火頻度が増加する。



FCDI社推奨培地に神経細胞用培地をサプリメントとして添加することで、単独培養と比較してiCell® GlutaNeuronsの神経機能を促進することが示された。

関連製品

製品コード	メーカーコード	品名	容量	細胞数 (cells/vial)	希望納入価格(円)
554-33501	C1060	iCell® グルタミン酸作動性神経細胞-01279	1 Vial	≥1.0×10 ⁶	152,000
558-33381	C1033	iCell® グルタミン酸作動性神経細胞-01279	1 Vial	≥6.0×10 ⁶	285,000
551-33631	M1029	iCell® 神経用サプリメント B	2 mL	-	32,000
558-33641	M1031	iCell® 神経系サプリメント	1 mL	-	37,000

※ : -150℃以下保存(液体窒素下での保存を推奨します。)

凍結神経細胞シリーズ

ラットやマウスの準備が面倒な方、解剖にあまり慣れていない方に

本製品はラット、マウス胎児の脳組織を凍結した製品です。ラット、マウスの準備の手間を省くことができます。培養の際は神経細胞用分散液(製品コード：291-78001,297-78101)にて本製品を分散後、神経細胞用培地(製品コード：148-09671)を用いて培養してください。

特長

- 面倒なラット、マウスの準備が不要
- 神経細胞用培地、神経細胞用分散液と組み合わせることで安定して神経細胞の分散と培養が可能

製品情報

製品コード	品名	規格	容量	希望納入価格(円)	
082-10291	海馬, マウス(胎生16日)由来	-150 ^o	細胞培養用	2.5胎児/本	61,900
033-24871	大脳皮質, ラット(胎生17日)由来	-150 ^o		2胎児/本	51,000
036-24861	大脳線条体, ラット(胎生17日)由来	-150 ^o		2胎児/本	55,000
085-10301	海馬, ラット(胎生19日)由来	-150 ^o		2.5胎児/本	68,800
030-24881	大脳皮質, マウス(胎生15日)由来	-150 ^o		2胎児/本	45,000

※ -150^o : -150℃以下保存(液体窒素下での保存を推奨します。)

神経細胞用分散液

脳組織から誰でも簡単に神経細胞を単離可能

ラット、マウスの中枢神経組織から神経細胞を分散、単離することができる試薬です。3種類の溶液(酵素液、分散液、除去液)で構成されています。本製品を使用することで調液の手間を省き、高い生存率を保持したまま簡単に神経細胞を単離することができます。

特長

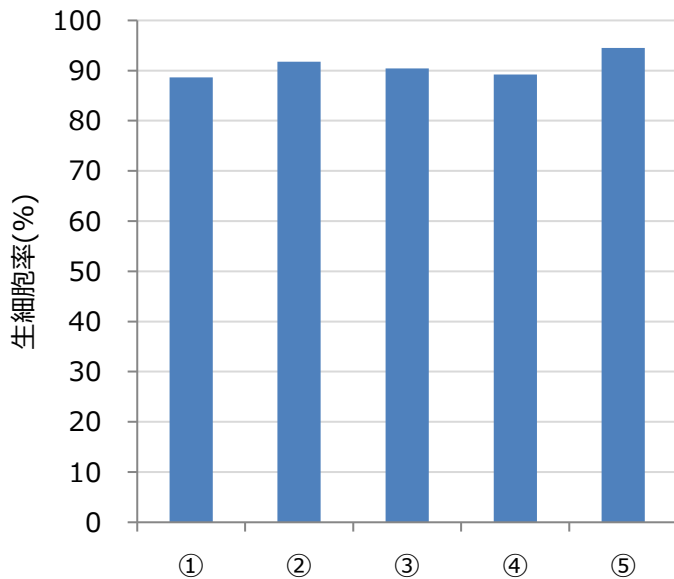
- 簡単に安定して神経細胞の単離が可能
- Ready-to-use

製品情報

製品コード	品名	規格	容量	内容	希望納入価格(円)	
291-78001	神経細胞用分散液	-80 ^o	4セット	酵素液	5.0 mL×4本	48,000
				分散液	5.0 mL×4本	
				除去液	5.0 mL×4本	
297-78101	神経細胞用分散液S	-80 ^o	10セット	酵素液	2.5 mL×10本	68,000
				分散液	2.5 mL×10本	
				除去液	2.5 mL×10本	

実験1 凍結神経細胞シリーズからの分散単離による生細胞率

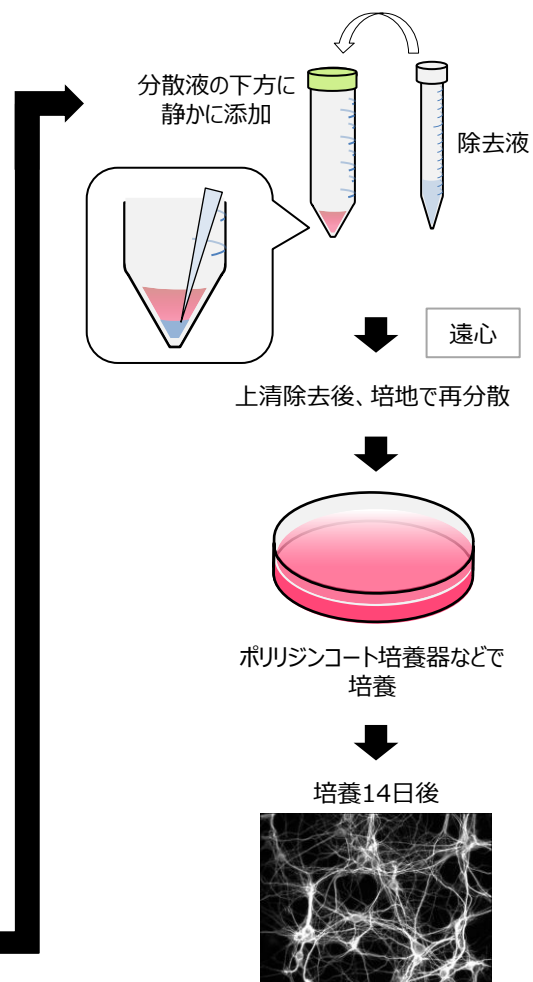
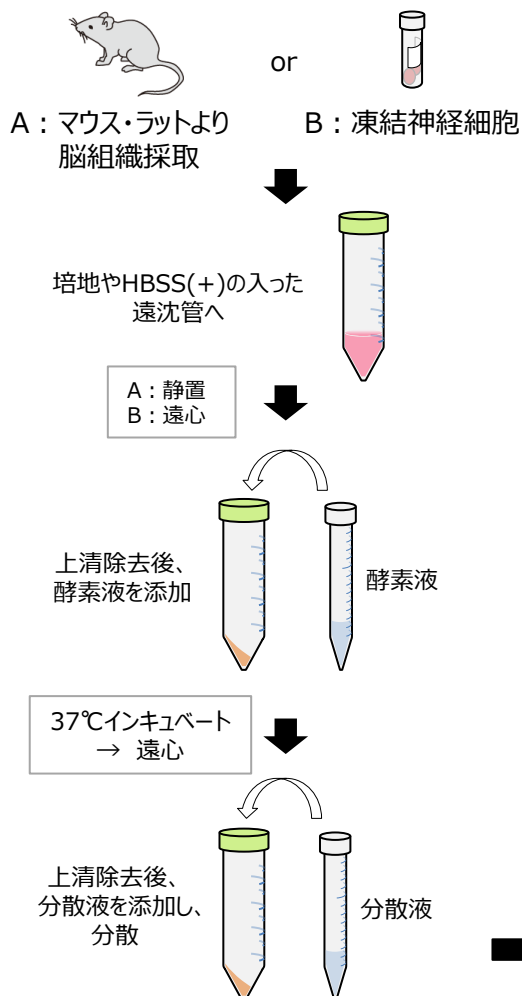
凍結神経細胞シリーズから神経細胞用分散液にて細胞を分散単離し、生細胞率を確認した。



試料番号	製品名	総細胞数 (cells/vial)	生細胞数 (cells/vial)	生細胞率 (%)
①	海馬, マウス (胎生16日) 由来	総細胞数 (cells/vial)	4.32×10^5	89
		生細胞数 (cells/vial)	3.83×10^5	
		生細胞率 (%)	89	
②	大脳皮質, マウス (胎生15日) 由来	総細胞数 (cells/vial)	6.64×10^6	92
		生細胞数 (cells/vial)	6.09×10^6	
		生細胞率 (%)	92	
③	海馬, ラット (胎生19日) 由来	総細胞数 (cells/vial)	1.37×10^6	90
		生細胞数 (cells/vial)	1.24×10^6	
		生細胞率 (%)	90	
④	大脳皮質, ラット (胎生17日) 由来	総細胞数 (cells/vial)	1.32×10^7	89
		生細胞数 (cells/vial)	1.17×10^7	
		生細胞率 (%)	89	
⑤	線条体, ラット (胎生17日) 由来	総細胞数 (cells/vial)	2.73×10^6	95
		生細胞数 (cells/vial)	2.58×10^6	
		生細胞率 (%)	95	

神経細胞用分散液を用いることで凍結神経細胞から約90%の高い生細胞率で細胞を単離可能であることが確認できた。

実験プロトコール



脳組織凍結保存溶液

Ready-to-useで脳組織を保存

本製品はラット、マウス胎児の脳組織凍結保存用の凍結保存溶液です。
解凍した本製品に脳組織を入れるだけで凍結保存可能です。
保存した脳組織は、解凍後、神経細胞用分散液(製品コード：291-78001, 297-78101)にて分散し、神経細胞用培地(製品コード：148-09671)を用いて培養して下さい。

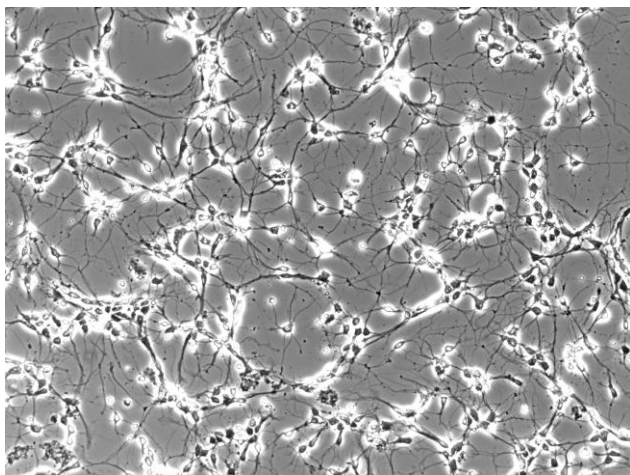
特長

- 解剖後のラットやマウスの脳組織を凍結保存可能
- Ready-to-use

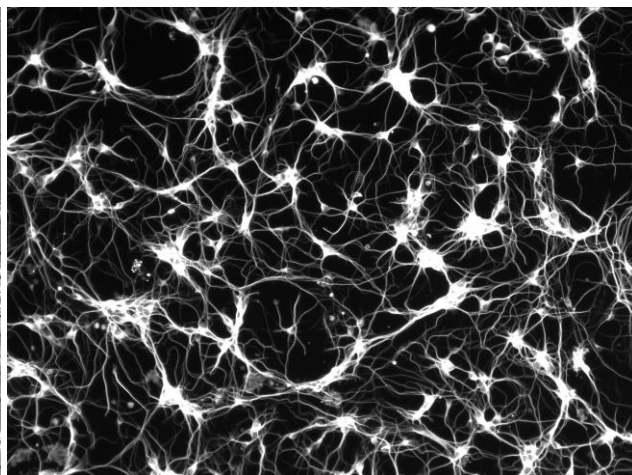
実験1 ▶ 凍結保存データ (βIII-Tubulin免疫染色)

本製品にてマウス胎児海馬を3日間保管した。凍結融解後、神経細胞用分散液で細胞を分散回収し、播種した。2日間培養後、免疫染色による観察を行った。

位相差像



βIII-Tubulin免疫染色



実験条件

細胞数：約 1×10^6 cells/dish (胎生18.5日目マウスの胎児海馬より分散)
培養スケール：1 mL/well(ポリリジン/ラミネコートガラスボトムディッシュ)
培養条件：37°C、5%CO₂

データご提供

東京慈恵会医科大学 再生医学研究部
岡野 ジェイムス 洋尚先生、長谷川 実奈美様

➡ 本製品で保存した脳組織は解凍後も良好な増殖能を示し、中枢神経のマーカーのひとつであるβIII-Tubulinを発現していることが分かった。

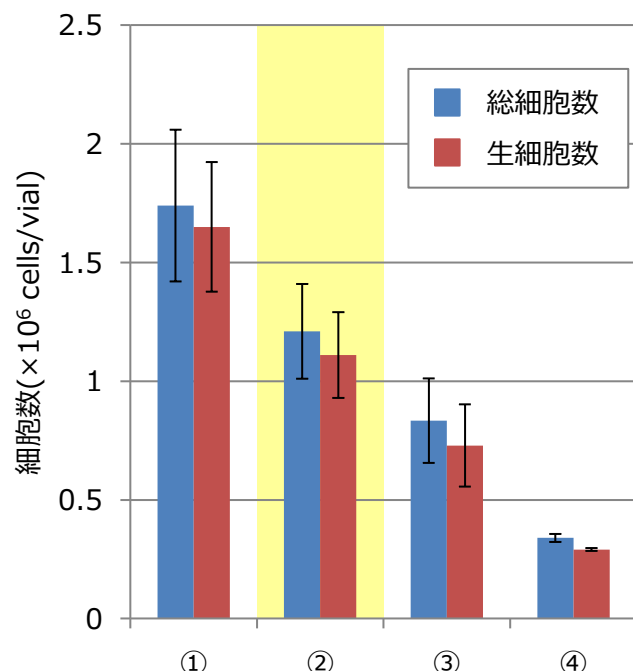
製品情報

製品コード	品名	規格	容量	希望納入価格(円)
029-19161	脳組織凍結保存溶液	-80 ^o	細胞培養用 1 mL×10本/箱	26,400

実験2 凍結保存データ (細胞性能比較)

各凍結保存溶液を用いて、ラット胎児海馬の凍結保存を行った。

中一日おき、凍結融解後、神経細胞用分散液で細胞を分散回収し、性能比較を行った。



		総細胞数 (cells/vial)	生細胞数 (cells/vial)	生細胞率 (%)	生細胞数比※
①	凍結保存なし	1.74×10 ⁶	1.65×10 ⁶	95	1.00
②	脳組織凍結保存溶液	1.21×10 ⁶	1.11×10 ⁶	92	0.67
③	弊社凍結保存溶液 (汎用動物細胞用) (血清成分含有)	8.34×10 ⁵	7.29×10 ⁵	87	0.44
④	他社凍結保存溶液 (汎用動物細胞用) (血清成分含有)	3.40×10 ⁵	2.91×10 ⁵	86	0.18

※ 凍結保存無しの条件の総細胞数を1とした場合



本製品で脳組織を保存した場合、他社品で保存した場合と比較して3倍以上の生細胞を回収することができた。

組織凍結保存の流れ

- ① 胎児解剖
- ② 一次冷却
組織を保存溶液に入れ、氷上で90分静置
- ③ 二次冷却
一次冷却後、-80℃で3時間静置
- ④ 保管
二次冷却後、-150℃以下(液体窒素下など)で長期保管

！ 使用上のご注意 ！

解剖開始から一次冷却開始までの時間は可能な限り短くして下さい。

(目安として動物麻酔から脳組織を凍結保存溶液に入れるまでの時間を1時間以内にして下さい。)

細胞生存率は胎児取出し後の時間経過に伴い低下します。神経細胞用分散液を用いた時には死細胞が除かれるため、回収細胞数が減少します。また、作業は可能な限り氷上で実施して下さい。

Q&A

Q：実験の都合上、二次冷却の時間が3時間取れません。Overnightでは細胞が死滅してしまうのでしょうか。

A：細胞数は少し減少しますが二次冷却はOvernight(12時間)で実施しても実用上十分な数の細胞が回収できます。

(9ページ目の実験データはOvernightにて二次冷却した場合の実験データです。)

NS基礎培地/NSサプリメント

神経細胞・神経幹細胞を手軽に培養したい方に

NS基礎培地は、神経細胞培養に最適化した基礎培地です。NSサプリメントは、神経細胞培養用の無血清サプリメント（酢酸レチニル含有）です。

ラット海馬より単離した神経細胞の培養や神経幹細胞などの培養に使用できます。

NS基礎培地とNSサプリメントを混合してご使用ください。

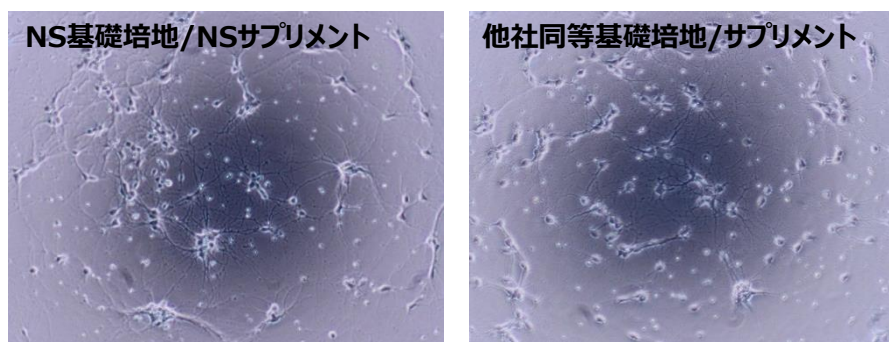
特長

- 既知組成
- 無血清培地、無血清サプリメント

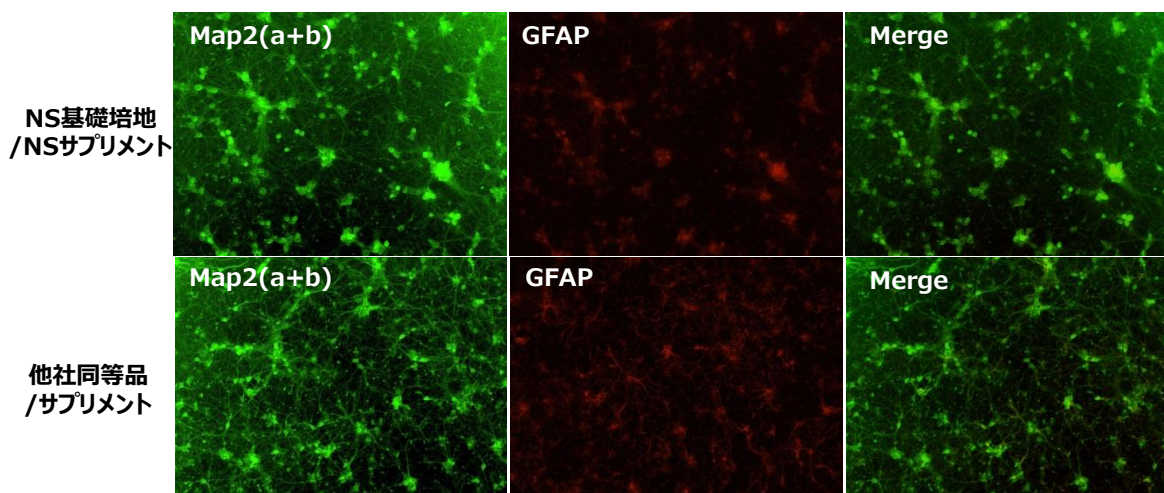
実験1 ▶ ラット海馬由来初代神経細胞の培養

ラット胎児（E19）の海馬より単離した神経細胞をポリ-L-リジンコートプレート上で培養した。培養6日目の細胞形態と培養21日目の神経細胞マーカー（Map2（a+b））とグリア細胞マーカー（GFAP）の発現を確認した。

培養6日目



培養21日目



< 培地組成 >

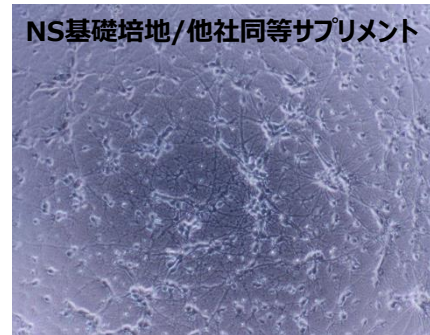
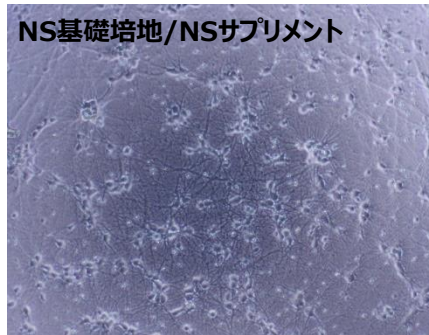
NS基礎培地 + 2% NSサプリメント + 0.5 mmol/L L-グルタミン

< 細胞播種数 >

13,000 cells/well (96wellプレート)

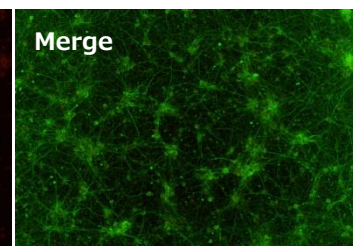
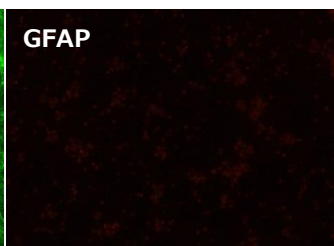
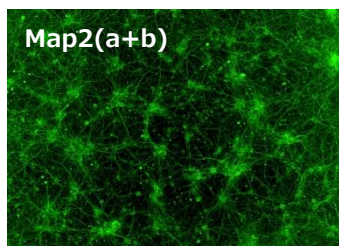
実験2 ▶ ラット大脳皮質由来初代神経細胞の培養

培養8日目

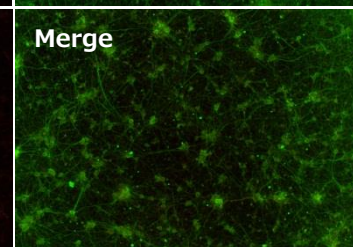
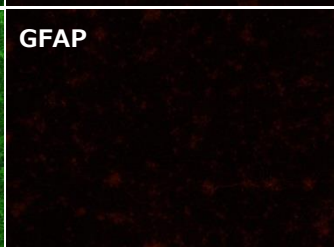
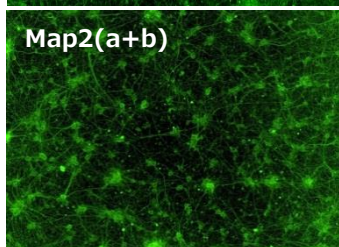


培養14日目

NS基礎培地
/NSサプリメント



NS基礎培地
/他社同等サプリメント



< 培地組成 >

NS基礎培地 + 2% NSサプリメント + 0.5mmol/L L-グルタミン



< 細胞播種数 >

60,000 cells/well (96wellプレート)




本培地・本サプリメントを用いて他社製品と組み合わせても問題なく培養できることが確認できた。

製品情報

製品コード	品名	規格	容量	希望納入価格(円)
148-09615	NS基礎培地 	細胞 培養用	500 mL	9,150
146-09351	NSサプリメント (×50) 		10 mL	32,000

関連製品

製品コード	品名	規格	容量	希望納入価格(円)
073-05391	200mmol/L L-グルタミン溶液 (×100) 	細胞 培養用	100 mL	3,200

N2サプリメントシリーズ

神経幹細胞の培養用血清代替品

本製品は、神経系細胞の培養に使用する汎用の血清代替品です。初代神経細胞や神経幹細胞の培養に適しています。神経幹細胞はFBSに含まれる成分により分化誘導が引き起こされます。未分化状態を維持したまま培養するために本製品をはじめとする血清代替品が使用されています。弊社では**トランスフェリン（アポ）**を用いて調製した製品と**トランスフェリン（ホロ）**を用いて調製した製品の2種類をラインアップしています。

特長

N2サプリメント【トランスフェリン（アポ）含有】

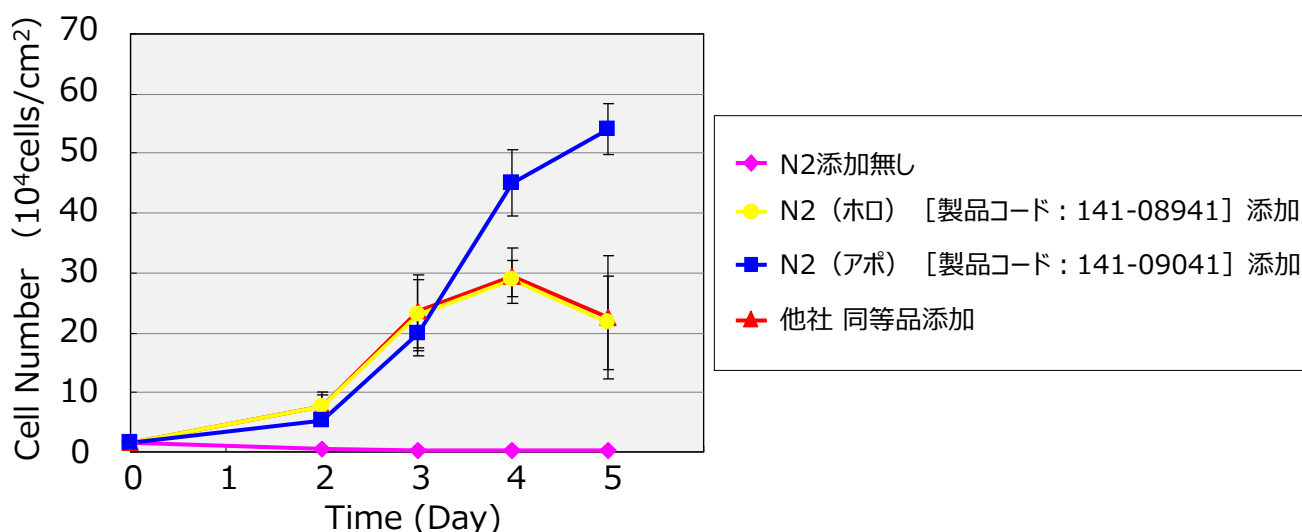
鉄が結合していないアポ型トランスフェリンを含むN2サプリメントです。培地中の鉄イオンの添加量が抑えられるため、酸化ストレスに弱い細胞などに適している場合があります。

N2サプリメント【トランスフェリン（ホロ）含有】

一般的な組成です。

実験 1 ▶ ラット海馬由来神経細胞の細胞数比較

N2サプリメント【トランスフェリン（アポ）含有】の使用がより適していた実験例



<培地組成>

D-MEM/Ham's F-12 + 2mmol/L L-グルタミン + 1×N2 サプリメント
+ 1×ペニシリン-ストレプトマイシン + 25ng/mL bFGF

<播種細胞数>

16,000 cells/cm² (12穴プレート)

<培養条件>

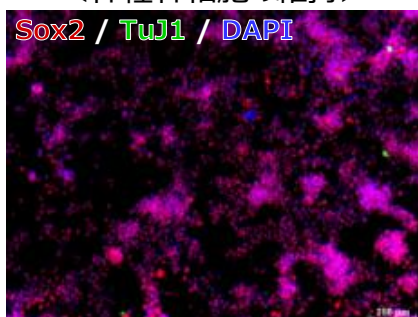
37°C, 5% CO₂

実験2 ▶ ラット海馬由来神経幹細胞の培養

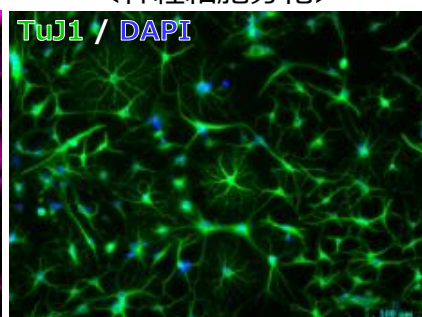
いずれのN2サプリメントを用いても維持培養、その後の分化に関しても影響なく実施できることを確認済みです。

N2サプリメント[トランスフェリン(ホロ)含有]

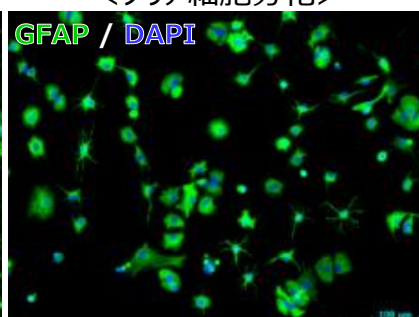
＜神経幹細胞の維持＞



＜神経細胞分化＞

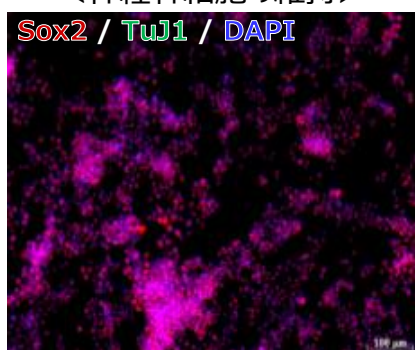


＜グリア細胞分化＞

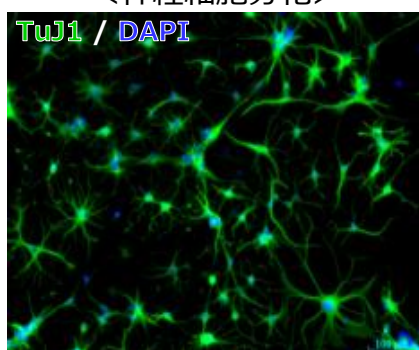


N2サプリメント[トランスフェリン(アポ)含有]

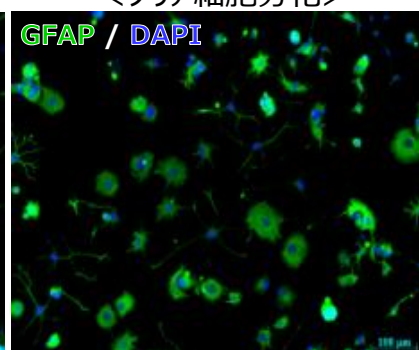
＜神経幹細胞の維持＞



＜神経細胞分化＞



＜グリア細胞分化＞



製品情報

製品コード	品名	規格	容量	希望納入価格(円)
141-09041	N2サプリメント[トランスフェリン(アポ)含有](×100) F [○]	細胞培養用	5 mL	22,000
141-08941	N2サプリメント[トランスフェリン(ホロ)含有](×100) F [○]		5 mL	20,000

関連製品

製品コード	品名	規格	容量	希望納入価格(円)
090-06741	ITS-Gサプリメント (×100) 1mg/mL インスリン, 0.55mg/mL トランスフェリン(アポ), 0.67mg/L 亜セレン酸ナトリウムを含むEBSS溶液 F [○]	細胞培養用	10 mL	4,350
097-06751	ITS-Aサプリメント (×100) 1mg/mL インスリン, 0.55mg/mL トランスフェリン(アポ), 0.67mg/L 亜セレン酸ナトリウム, 11mg/mL ビルビン酸ナトリウムを含むEBSS溶液 F [○]		10 mL	4,350
094-06761	ITS-Xサプリメント (×100) 1mg/mL インスリン, 0.55mg/mL トランスフェリン(アポ), 0.67mg/L 亜セレン酸ナトリウム, 0.2mg/mL エタノールアミンを含むEBSS溶液 F [○]		10 mL	5,050

神経関連抗体

パーキンソン病研究用

製品コード	品名	容量	希望納入価格(円)
015-25191	抗りん酸化α-シヌクレイン, モノクローナル抗体(pSyn#64)	50 μL	39,600
010-26481	抗りん酸化α-シヌクレイン, モノクローナル抗体(pSyn#64), ビオチン結合	100 μL	55,000

アルツハイマー病研究用

製品コード	品名	容量	希望納入価格(円)
017-26871	抗ヒトアミロイドβ,	10 μL	11,000
013-26873	モノクローナル抗体(BAN50)	50 μL	38,500
010-26883	抗アミロイドβ,	50 μL	38,500
018-26921	抗アミロイドβ40,	10 μL	11,000
014-26923	モノクローナル抗体(BA27)	50 μL	38,500
014-26901	抗アミロイドβ42(43),	10 μL	11,000
010-26903	モノクローナル抗体(BC05)	50 μL	38,500

アルツハイマー病研究用 Tau認識抗体

認識Tau	製品コード	品名	容量	希望納入価格(円)
全てのTau	017-26893	抗ヒト/マウス/ラットTau, ラットモノクローナル抗体(RTM38)	50 μL	38,500
全てのTau(ヒト特異的)	015-26953	抗ヒトTau, ラットモノクローナル抗体(RTM49)	50 μL	38,500
全てのTau(マウス特異的)	012-26963	抗マウスTau, ラットモノクローナル抗体(RTM47)	50 μL	38,500
リン酸化Tau T181	016-26601	抗りん酸化Tau T181, ラットモノクローナル抗体(2E2-A6)	50 μL	33,000
リン酸化Tau S199	013-26611	抗りん酸化Tau S199, ラットモノクローナル抗体(5B8-1E2)	50 μL	33,000
リン酸化Tau S262	010-27123	抗りん酸化Tau S262, ラットモノクローナル抗体(TIP1-35)	50 μL	38,500
リン酸化Tau S422	012-27683	抗りん酸化Tau S422, モノクローナル抗体(AP422)	50 μL	55,000
2N-Tau	017-27351 013-27353	抗2N-Tau, ラットモノクローナル抗体(2C2)	10 μL 50 μL	10,000 30,000
3R-Tau	016-26581	抗3R-Tau, ラットモノクローナル抗体(2A1-1F4)	50 μL	33,000
4R-Tau	019-26593 013-26591	抗4R-Tau, モノクローナル抗体(3E8-1A6)	10 μL 50 μL	10,000 33,000

ミクログリア研究用

製品コード	品名	容量	希望納入価格(円)
019-19741	抗Iba1,ウサギ (免疫細胞化学用)	50 μg	44,000
013-27691	抗Iba1,ウサギ (パラフィン切片用)	50 μg	49,500
016-20001	抗Iba1,ウサギ (ウエスタンブロッティング用)	50 μg	44,000
016-26461	抗Iba1,ウサギ, ビオチン結合	100 μL	49,500
282-37691	抗Iba1,ウサギ, 緑色蛍光色素(488)結合(プロトタイプ)	100 μL	50,000
011-28013	抗Iba1,ウサギ,	10 μL	10,000
015-28011	SPICA Dye™ 568結合	100 μL	55,000
012-28401	抗Iba1,ウサギ, SPICA Dye™ 594結合	100 μL	55,000
013-26471	抗Iba1,ウサギ, 赤色蛍光色素(635)結合	100 μL	53,400
011-27991	抗Iba1,ヤギ	100 μL	49,500
012-26723	抗Iba1,モノクローナル抗体 (NCNP24)	10 μL	16,500
016-26721		50 μL	49,500
017-27591	抗ヒトIba1,モノクローナル抗体 (NCNP27)	10 μL	19,800
013-27593		50 μL	44,000


Ref…2 ~ 10℃保存 F…-20℃保存 80…-80℃保存 150…-150℃保存 表示がない場合は室温保存です。
 特定 毒1…特定毒物 毒2…毒物 劇1…劇物 劇2…劇物 毒薬…毒薬 劇薬…劇薬 危…危険物 向…向精神薬 特麻…特定麻薬向精神薬原料 カルタヘナ…カルタヘナ法
 特定 化審1…化審法 第一種特定化学物質 化審2…化審法 第二種特定化学物質 化兵1…化学兵器禁止法 第一種指定物質 化兵2…化学兵器禁止法 第二種指定物質
 覚せい剤取締法…「覚せい剤原料研究者又は取扱者」の免許を取得して、ご購入に際しては、譲受証及び譲渡証による受け渡しが必要となります。関
 国民保護法…生物・毒素兵器の製造、使用防止のため、「毒素等」を試験研究用に使用することを確認する証を頂戴しております。毒薬等
 上記以外の法律及び最新情報は、<https://labchem-wako.fujifilm.com> をご参照ください。

- 本文に記載しております試薬は、試験・研究の目的にのみ使用されるもので、「医療品」、「食品」、「生活用品」などとして使用できません。
- 希望納入価格には消費税等が含まれておりません。

富士フイルム 和光純薬株式会社

本 社 〒540-8605 大阪市中央区道修町三丁目1番2号 TEL 06-6203-3741 (代表)
 東京本店 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町二丁目4番1号 TEL 03-3270-8571 (代表)

- 九州営業所 ● 中国営業所
- 東海営業所 ● 横浜営業所
- 筑波営業所 ● 東北営業所
- 北海道営業所

 フリーダイヤル 0120-052-099
 試薬URL : <https://labchem-wako.fujifilm.com>

■ FUJIFILM Wako Chemicals U.S.A. Corporation 1600 Bellwood Road, Richmond, VA 23237, USA TEL: +1-804-714-1920 FAX: +1-804-271-7791
 ■ FUJIFILM Wako Chemicals Europe GmbH Fuggerstr 12, 41468 Neuss, Germany TEL: +49-2131-311-0 FAX: +49-2131-311-100